

2010年3月15日付

(第三種郵便物認可)

天然皮革用塗料

五常産業、中国で生産

上海に現法、5月稼働入り



杉岡専務

五常産業（東京都新宿区、藤田明男社長）は中国で天然皮革用塗料の生産を開始する。同社がこれまで培ってきた天然皮革の仕上げ用となる水溶性あるいは溶剤系の塗料技術を活用して、中国や他のアジア圏で需要増加中の座席シートやハンドルなど自動車関連をはじめ高級家具類、革靴、カバンなどに使用する皮革製品向けに塗料を製造、供給する。近く上海・金山区の工業団地内に現地法人を設立する一方、現在、製造ラインの整備を進めており、今年5月から生産を開始する予定。

初年度に年間1,000ト、3年後に2,000トの生産量を計画している。

五常産業は07年に皮革専用塗料メーカー、アイエスベイント（千葉県柏市）を買収、傘下に収め、さらに09年3月には吸収合併してISP事業所として組織、事業拡充を図ってきた。しかし近年の円高傾向を受けて日本から中国、韓国、台湾、東南アジアなどへの輸出が価格的に難しくなってきたことから、市場の大きい中国に製造拠点を設けることにした。

4月にISP事業所の製造技術、皮革への仕上げノウハウをベースにした製造・販売会社「上海艾斯塗料有限公司」上海インターナショナル・スペシャル・ベイント（ISP）（董事長・杉岡孝晴五常産業専務）を上海市金山区の実業都市内に設立するとともに、4月中旬に攪拌機など機器類を設置、ISP事業所の技術者らも派遣して5月から生産開始する。

生産品目は水性アクリル、ウレタンエマルジョン塗料など水溶性および硝化綿クリア塗料など溶剤系の塗料。2010年度1,000ト、3年後の13年度に2,000トの生産量を計画する。これら塗料は天然皮革製品の美観あるいは保護、感觸、機能付与など多様な目的に応じるための仕上げ剤として使われる。中国で需要が急拡大している自動車用の座席シート、ハンドルの表皮や高級家具類、革靴、カバン、ベルト、装飾品などが主な対象皮革。

今回の中国生産については「日本人技術者の派遣による製造・品質管理体制も整い、また河北、海寧、広州など各地にないめし皮メーカーが点在、原料調達ルートもあり、顧客である現地の皮革加工メーカーの縫製技術も向上、一方で欧米・日本・韓国・台湾から中国に

加工工場を移転するなど市場規模が拡大している（杉岡孝晴専務）ことも進出理由としている。さらに「五常産業のアジア各地の海外現地法人や代理店網を活用して販路開拓を図るが、近い将来はインドも狙いたい」（同）としている。

なお新拠点では設備の最大限の活用による稼働率向上を目指して塗料、溶剤などの受託製造にも応えていく。

（本稿は上海特派員による現地取材に基づき、中国語を日本語に翻訳したものである。一部は中国語の直訳による。）